

91 フランスで活躍する日本人建築家3（2021年12月9日）

フランスにおける日本人建築家の活躍はこれまでもご紹介しました（*）が、2021年には日本人建築家によってパリに新たな三つの観光スポットが誕生しました。

一つ目は、安藤忠雄が改修設計をしたブルス・ド・コメルス（Bourse de Commerce）です。18世紀に小麦の貯蔵庫として建てられ、19世紀に商品取引所として使われた建物が、フランスの実業家・フランソワ・ピノーのコレクションを展示する現代アートの美術館に生まれ変わりました。円形の建物の中にコンクリートで円形の空間が作られています。丸天井から光が注ぎ、灰色のコンクリートは歴史的な建物と見事に融合しています。

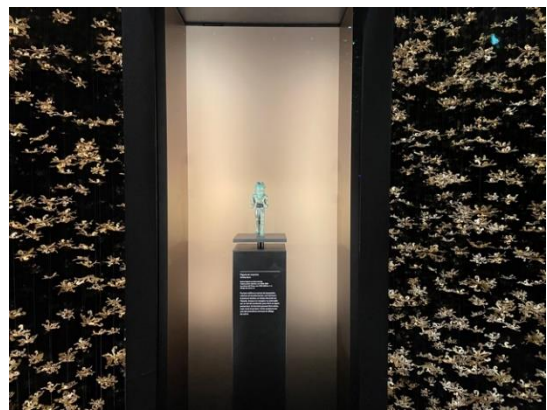


二つ目は、サマリテーヌ百貨店です。これは、SANAA（妹島和世と西沢立衛の建築家ユニット）によるものです。SANAAが手掛けたのは、リヴォリ通りに面したガラス張りの建物です。20世紀初めにフランツ・ジュルダンが設計したアー・ヌーヴォー様式建築と渡り廊下でつながっています。通路一本で、時代をタイムスリップした気分になれそうです。



パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

最後は、コンコルド広場に面したオテル・ド・ラ・マリンをご紹介します。この中にあるアル・サーニ・コレクションの展示スペースの改修を担当したのが田根剛です。オテル・ド・ラ・マリンは、ルイ 15 世時代の 18 世紀に王室家具管理係（Le Garde-Meuble de la Couronne）のために建設された建物で、フランス革命以降は海軍参謀本部（後に海洋省）が置かれていました。建物が使用されていた当時の姿に修復された部分は本年 6 月から公開され、展示スペースは 11 月に開館しました。



いずれも多くの観光客が訪れるパリ中心部にある歴史的な建物です。日本人建築家がこれらの改修を手がけました。今後もフランスで日本人建築家の活躍が期待されます。

* フランスで活躍する日本人建築家

<https://www.fr.emb-japan.go.jp/files/100158798.pdf>

フランスで活躍する日本人建築家 2

<https://www.fr.emb-japan.go.jp/files/100544959.pdf>